

令和4年度 学校評価自己評価表

a ミッション	「世羅がすき、甲山小学校がすき、学級がすき、 そんな自分がすき」といえる児童の育成	a ビジョン	(子ども達に育てたい資質・能力)
		(学校教育目標) 共に学び 進んで挑戦 思いやりいっぱい 甲山っ子	自発性・コミュニケーション能力
		(めざす学校像) ○確かな学力をつける学校(基礎・基本の力、表現力) ○学びの環境を整え、安心・安全な学校 ○地域と連携し、信頼される学校	
		(めざす子ども像) ○課題を発見し、主体的に学ぶ子ども ○豊かに表現する子ども ○互いに認め合い、最後までがんばる子ども	

世羅町立甲山小学校

評価計画				自己評価					学校運営協議会			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力	「生きる力」につながる基礎・基本の学力を身に付けさせる	探究的な学習(課題発見・解決学習)を実践し、学力の向上を図る。	○探究的な学習となるように単元開発を行い、児童の課題発見・解決能力を育成する。 ・自動化できる活動を増やし、主体的に学習する態度を養う。 ・ICT機器を活用して課題解決を図る授業改善を行い、情報活用能力を高める。(クラウドを活用した協働学習・コンテンツの利用・プログラミング・情報モラル等) ・対話を大切に授業改善を行い、コミュニケーション能力を高める。	○全国学力・学習状況調査および標準学力調査において、正答率が全国平均を上回った児童の割合	全国学テ 60% 標準学力調査 75%	全国学テ 国語47% 算数42% 理科68% 3教科平均 52%	全国学テ 国語 78% 算数 70% 理科 113% 3教科平均 87%	B	・全国学テの結果は、学年の平均正答率(%)で見ると、国語66(県67・全国65.6)算数57(県64・全国63.2)理科70(県66・全国63.3)であった。正答率が全国平均を上回った児童の割合で見ると、国語47、算数42、理科68であった。国語では「書くこと」、算数では「数量関係」、理科では「エネルギー」の領域で課題が見られた。問題形式では、選択式65.2、短答式72.5、記述式54.8で「記述式」で答える問題で課題が見られた。 ・国語では、文章全体の構成に着目して文章を整えながら考えを書く問題に課題があった。算数では、日常場面に即して数量関係をとらえ、基準量や比較量が変わっても割合は変わらないことへの理解に課題があった。理科では、自然現象をある視点で分析・解釈し、自分の考えを記述することに課題があった。	○	○	○	・標準学力は未実施のため、達成度や分析はまだ出せないが、国語の課題は出ているので、どう分析して、日常の学習の中で継続的に実践していくかを大切にしたい。 ・特に平均正答率に達していない児童に対して、より細やかな指導が必要だと思う。理解できていないとずっと分からない状態で全ての弊害になりうると考える。 ・以前はもっと全国平均を上回っていたと記憶する。算数が気になるが、改善案のもと進めてほしい。 ・学びの選択肢の一つとしてchromebookが効果的に活用されている。学力調査結果から算数の課題が明らかとなっているが、甲山中学校においても数学が課題となっている。 ・課題が明確化されているので結果へとつながるよう期待します。 ・理科と国語については心配はないように思われるが、算数に関しては児童の躓きをできるだけ早い段階で解消しなければ、今後算数に対する苦手意識が大きくなると思われる。	・「読む・書く・計算する」の知識・技能を確実に定着させ、基礎的な学力を身に付けさせる。 ・課題の見られた領域については、学年の系統性も意識し全学年で丁寧な指導していく。算数の数量関係については、児童のつまずきを把握し類似問題に取り組みさせるなど、確実に定着するようにする。 ・児童が追究したいと思うような単元開発を行い、主体的に学習できる学習活動を工夫する。ICTを日常的に活用して、自分で情報を活用しながら学習できるよう個別最適化を進める。 ・自分の考えや学習のふり返りを文章で書く学習を取り入れ、文章表現力や文章を構成する力を育成する。
心身の成長	豊かな心と健やかな体を育成する	児童会活動の活性化を図り、児童の主体性と自信を育てる。	○児童が自ら課題を見つけ、解決に向けて主体的に行動できるよう、児童会や高学年を中心として取組を進めていく。 ・あいさつ、返事、MUGON3に取り組み、さらなるレベルアップを目指す。 ・縦割り活動の充実を図り、コミュニケーション能力を高める。	○あいさつレベル4以上、返事レベル2以上を達成した児童の割合	あいさつ 85% 返事 85% 無言 38.5%	あいさつ 74% 返事 92% 無言 39.2%	あいさつ 87% 返事 108% 無言 3108%	B A A	・児童アンケートの結果、「あいさつ」は達成率が87%であり、若干目標値を下回った。児童会役員を中心に呼び掛けたり、月目標に設定したりしてレベルアップに取り組んだが、児童の自己評価はさほど高くなかった。レベルアップすること、それが実感できるこの両方が実現できる取り組みを進めていく必要がある。返事、MUGON3については達成率がどちらも108%であり、目標値を上回った。特に返事については児童会役員が自身の公約と絡めた取り組みを進め、全校に意識を高めるムードが広がったように感じる。MUGON3については、「無言掃除」はよくできていると言えるが、「無言集合」や「無言移動」は児童の自己評価を鶴呑みには出来ないと感じる。2学期さらにレベルアップできるよう取り組みを進める。 ・縦割り班活動については、1年生を迎える会を6年生が中心になって行い、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。	○	○	・地域においても、登下校時に大きな声で挨拶ができるように声掛けをしていきたい。 ・児童は登下校で声かけをするとき挨拶をしっかり返している。学校の取組がきている。 ・地域の方からも挨拶が良くて児童が多いと聞いている。 ・挨拶や返事の重要性、大切さをしっかり教えていただきたい。ただ挨拶することを求めるのではなく、なぜする必要があるのかを教えてほしい。 ・コロナ禍で、なかなか子供達の様子を見ることのできないので、コメントはできないが「あいさつ」に関しては我々も意識して児童に接していきたいと思う。	・あいさつの更なるレベルアップを図るために、登校時のあいさつに対する評価活動を仕組む。 ・返事を習慣化させるために、指導者側の声掛けの意識統一を図る。 ・MUGON3で特に「無言移動」が意識化できるような仕掛けをする。 ・コロナ禍の関係で縦割り班活動を仕組むことがなかなか難しい現状にあるが、タイミングを見計らいながら企画していきたい。	
地域と創る学校	地域と共に育つ子供の育成	コミュニティ・スクールの取組を生かし、地域に積極的に関わろうとする児童生徒の育成を進める。	○地域と連携・協働するために、地域運営協議会を中心に、学校教育活動に参画してもらおう土台作りを行う。 ○発達段階に応じて、地域と関わる学習を展開する。 地域学習におけるゲストティーチャーなど、児童生徒が地域の方々と関わる場を設ける。 ○意図的・継続的な情報発信を行う。(各種たより、ホームページ等)	○学校運営協議会を年3回以上開催。	100%	第1回会議を実施 100%	会議開催 100% アンケート 111%	A	・6月に第1回学校運営協議会を行い、規則の確認や会長等を選出し、学校運営方針の承認を得た。次回は10月下旬に行い、学校評価自己評価表中間報告や部会案等について協議する予定である。 ・地域とのつながりに係る肯定的評価の割合をみるアンケートの児童アンケートを9月に行い、94.5%の肯定的評価の割合を得た。保護者や地域へのアンケートも9月中旬に実施予定。	○	○	・甲山小学校児童・保護者と地域をつなぐ役割を担って、活動していく。 ・今後ともよろしくお願ひします。 ・11月20日に今高野山開基1200年記念「大田庄まつり」を開催する。9:30~15:30 ・甲山小学校では、これまでも地域を巻き込んだ活動に取り組みされているので、CSの取組に発展させる土台はできていると考える。中学校としても大いに参考にさせていただきたい。 ・コロナの影響もあり、従来のように地域との係わりも持たない中、コミュニティスクールの取組に期待します。 ・学校運営協議会の制度が始まったばかりで、なかなか何をどう考えればよいかわからないが、これから皆さんと力を合わせて取り組みたい。	・保護者へは、学校だよりを通じて学校運営協議会について理解を図る広報を行っている。今後、各部会を立ち上げ、部会の活動を実施することを通して保護者への周知を図っていく。 ・鼓笛演奏や今高野山開基1200年に係る学習など、地域活動部会との関連を図りながら計画・実施していく。	
子供と向き合う時間の確保	子どもと向き合う時間を確保する。	○教職員が、超過勤務月45時間を超えない職場づくりに努める。	○児童実態の共有化を日常的に図り、肯定的評価と積極的な生徒指導を推進するとともに、保護者連携を適切に図ることにより、充実・安定した学校生活の実現を図る。 ○やりがいとつながりのある職場づくりを推進するために、職員同士のコミュニケーションを大切に情報共有を図る。 ○月半ばで超過勤務時数を各職員に提示する。	○時間外勤務時間月45時間以内の割合	100%	98%	98%	B	・4月から7月までの期間で、時間外勤務時間が月45時間を超える件数は52分の1で、98%が月45時間以内の割合だった。これまで取り組んできた児童への肯定的評価や積極的な生徒指導の実践により、児童は安定した学校生活を送ることができ、教職員の時間外勤務減少につながっている。 ・月30時間(年間360時間)を超える職員は、まだ多い。今後、さらに業務改善等の取組を進める必要がある。	○	○	・98%の達成度は高いと思う。あと一歩です。どこが改善できるか、視点を明確にして個々の先生への声掛けが必要だと思う。 ・休憩時間や掃除時間の短縮により、教職員の事務時間を確保されているのは良いことだと思う。時間内に仕事をやりこなすことは大変難しいが、業務改善の取組がなされることを望む。 ・児童と向き合う時間の確保に努めてほしい。 ・目標達成に向け取組を行っておられるが、数値的な達成にばかり目が向けられ、実際は違うどこかに負担が出ないように気を配っていたいただきたい。 ・時間外勤務は、なかなか難しい問題であるけれど、仕事を自宅に持って帰るといった本末転倒になりがちな状況を、工夫して児童達や先生方の不利益にならぬようにしていただきたい。	・2学期以降も朝の勤務開始前の時間や夕方の時間外勤務を縮小し、時間外勤務の削減を図る。また、整打タイムなどでスケジュール管理(予定確認や時間外勤務時間の状況を把握する等)の徹底を図り、時間外勤務時間が月30時間以内を目指し、働き方改革を推進する。	

【自己評価 評価】
A : 100≦(目標達成)
C : 60≦(もう少し) < 80
B : 80≦(ほぼ達成) < 100
D : (できていない) < 60

【外部評価】
イ : 自己評価は適正である。ロ : 自己評価は適正でない。ハ : わからない。